

# 熊本地震復興祈念 筑前琵琶のしらべ

2016年熊本地震からの復興を祈念し、神戸より女流演奏家 川村旭芳さんを迎えて開催します。  
筑前琵琶の優美な音色と語りの世界をお楽しみください。



## ちくぜんびわ かわむらきょくほう 筑前琵琶奏者 川村旭芳

神戸市出身在住。筑前琵琶日本旭会 総師範 故二代柴田旭堂師のファンだった母の勧めで八歳の頃、師に入門。現在、筑前琵琶日本旭会 師範。独奏の弾き語り活動を中心に据えつつ、他分野との共演にも力を注ぐ。古典の琵琶曲を継承しながら新作の創作にも取り組み、阪神・淡路大震災の追悼曲ほか、母川村素子の作詞による作品も発表。

箏・尺八・胡弓などの演奏家四人で2004年に結成された和楽器ユニット「おとぎ」の代表を務め、関西での活動を中心に、八千代座(熊本県山鹿市)をはじめ全国の芝居小屋での公演も開催。

NHK-FM「邦楽のひととき」ほかテレビ・ラジオ出演。

日本詩吟学院 兵庫中央岳風会 会員。

ソロアルバムCD『源平一ノ谷合戦』『川村旭芳作品集～母娘合作集～』、

和楽器ユニット「おとぎ」CD『音戯紀行』ほか発売中。

◆川村旭芳 公式サイト <http://www.kyokuho-biwagaku.jp/>

◆和楽器ユニット「おとぎ」公式サイト <http://otogi.halfmoon.jp/>

【日 時】令和2年5月24日(日) 13時半開演(13時開場)

【会 場】熊本市国際交流会館 6階ホール

〒860-0806 熊本市中央区花畑町4-8 / Tel:096-359-2020

【入場料】◆一般 前売1,200円/当日1,500円 ◆学生無料(要 事前申し込み)

※チケットは熊日プレイガイドびぶれす店でもお求め頂けます。※未就学児のご入場はお断りします。

### 【予定演目】

◆『平家物語』より「ぎ おんしょうじゃ あつもり祇園精舎」敦盛

◆鴨長明『方丈記』より「げんりやく おほなみ元暦の大地震」 原文抜粋/川村旭芳 作曲  
～壇ノ浦合戦の数ヶ月後に都で起こった大災害～

◆「こうじょしらぎく孝女白菊」 講談社絵本より/池田寿 作詞/二代柴田旭堂 作曲  
～阿蘇の山里で拾われた少女白菊 西南の役の戦渦に巻き込まれながらも健気に生きた波乱万丈の物語～

【お申込み・お問合せ】くまもと琵琶楽普及会 小島 Tel:096-369-8573(18:00～)

【主 催】くまもと琵琶楽普及会

【後 援】熊本市/熊本市教育委員会

## 【予定演目解説】

### ◆「<sup>ぎ おんしょうじゃ</sup>祇園精舎」 平家物語 原文より

祇園精舎の鐘の聲 諸行無常の響あり  
娑羅双樹の花の色 盛者必衰の理をあらはす  
おごれる人も久しからず 唯春の夜の夢のごとし  
たけき者も遂にはほろびぬ 偏に風の前の塵に同じ

### ◆「<sup>あつもり</sup>敦盛」

一ノ谷合戦で平家軍は、源義経の逆落しの奇襲によって討ち負かされ、命あるものは次々と舟で沖へと逃れてゆきます。その中に、一人遅れて海中に馬を進める武将がありました。源氏の荒武者 熊谷直実は、呼び返し、組み伏せて首を討とうとしますが、見ると我が子と同じ歳頃の美しい公達でした。直実は助けたいと思いますが、背後には源氏の軍が迫っており、涙ながらに首を掻き斬ったのでした。

須磨寺の《青葉の笛》で知られる、笛の名手 平敦盛の最期を詠った名曲です。

### ◆鴨長明『<sup>げんりやく おほなる</sup>方丈記』より「元暦の大地震」 原文抜粋／川村旭芳 節付

「ゆく河の流れは絶えずしてしかももとの水にあらず」の冒頭句で知られる『方丈記』は、鎌倉時代初期に書かれた日本随筆文学の代表作の一つです。

源平の争乱期を生きた著者の鴨長明は、晩年、京の郊外に一丈四方の庵を結んで隠棲し、そこで、それまでに見聞きした世間の様を書き記し、自ら『方丈記』と名付けました。

壇ノ浦合戦から数ヶ月後の元暦二年(1185年)7月9日に都で起きた大地震の他、安元の大火(1177年)、治承の竜巻(1180年)、養和の飢饉(1181～2年)、更には福原遷都によって人々が混乱する様など、自らが経験した災厄について実に克明に記されていて、歴史史料としても重んじられています。

阪神・淡路大震災から二十年の節目を迎えた2015年、翌2016年には東日本大震災から五年を迎えるにあたって、「元暦の大地震」のくだりに節付けした、この琵琶曲を作りました。

リズムカルな和漢混交文で書かれた名文の中に、地震の恐ろしさがありありと描かれ、災害は今も昔も変わらないことを実感させられます。

私川村旭芳も阪神・淡路大震災を経験し、毎年、神戸で開催される「1. 17市民追悼の集い」で自作の追悼曲を献奏しており、その曲と共に、本作品も永く語ってゆきたいと思っています。

2015年3月11日 東京で開催された「東日本大震災 鎮魂と復興の集い」にて初演

### ◆「<sup>こうじょしらぎく</sup>孝女白菊」 池田寿 作詞／二代柴田旭堂 作曲

西南戦争の頃の阿蘇を舞台にした物語。かつては講談社の絵本や、落合直文の作詞による歌などで知られていました。川村旭芳が柴田旭堂師に入門して間もない小学生の頃、師が川村のために作曲して下さった琵琶曲です。

肥後、熊本の町外れです。白い野菊が咲き乱れる道端に、誰が捨てたのでしょうか、かわいい女の赤ん坊が泣いていました。通りかかった本田昭利、竹という心優しい夫婦に拾われて、赤ん坊は白菊と名付けられました。

明治十年、熊本は西南戦争の激戦地になりました。戦火で家は焼かれ、戦に出た昭利の安否を気遣った竹は、阿蘇の麓のあばら家で病に倒れてしまいました。いまわの際に竹は、白菊に向かって言いました。「そなたは私の本当の娘ではありません。そなたは憶えておいでではないかもしれないけれど、私たちには昭英という男の子がいました。お父様のお怒りに触れることがあって家を出てしまいましたが、きっとどこかで立派に成人していると信じています。もし巡り会えたなら、そなたに昭英の妻になってほしいのです。」そう言い残して、竹は息を引き取りました。

母の菩提を弔いつつ暮らす白菊を、どうやって探し当てたのでしょうか、ある日、父の昭利が戦さから帰って来たのです。

しかし、白菊の喜びも束の間、やがて父は狩に出たまま何日も帰らなくなりました。父の身を案じた白菊は、山奥さしてあての無い旅に出かけるのでした…。